

大学発イノベーション分科会セッション

◆ IoTと知財 ◆

【講演者】

平塚 三好 氏 (東京理科大学教授)

「社会変革を興す IoT・AI・ビッグデータ時代における知財システム」

須川 賢洋 氏 (新潟大学助教)

「IoT・AI・ビッグデータと著作権の将来論点」

小林 和人 氏 (パナソニック株式会社知的財産センター主幹・弁理士)

「企業弁理士からみた IoT を巡る知財課題」

安高 史朗 氏 (安高特許会計事務所 代表弁理士・公認会計士)

「IoT 分野における権利化戦略」

阿部 仁 氏 (富士ゼロックス株式会社)

「データ処理技術の発展に伴う知的財産の保護と利活用上の課題」

【内 容】

ICTを駆使した製造業革新 (インダストリー4.0) の動きや、ビッグデータ・ビジネスなど新たなICTビジネス分野のコアとして注目を浴びているのがIoT (Internet of things:モノのインターネット) である。革新的なセンサやICTの発展により、様々なモノがインターネットに繋がる結果、多様なサービスを提供することができるようになり、発達した人工知能との相乗効果と相まって、新たなビジネスモデルが登場してきている。そのインパクトは、工業だけでなく、学術、医療、福祉や農業などの多様な各種領域にも及ぶ。我が国でも、国家ビジョンである「日本再興戦略」の最も重要な手段としてICTが位置づけられており、「世界最高水準のIT国家」を目指している。多くの日本企業は、IoTを導入することにより、イノベーションを興そうと、様々なアプローチで取り組んでいる。しかしながら、知財としての保護・活用の在り方やビッグデータの法的取り扱い等の検討が未整備である。

そこで、本セッションでは、IoT を活用したビジネス展開時に最も重要となる知的財産に関する課題について各領域の専門家により多方面に検討する。

大学発イノベーション分科会セッション

◆ IoTと知財 ◆

【略歴】

平塚 三好 氏

東京理科大学・教授。工学博士（課程）。東京理科大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程において、軍事用途の人工知能の研究を行い、現在でも人工知能の研究を続ける。平成28年度 経産省・特許庁「第四次産業革命を視野に入れた知財システムの在り方に関する検討会」座長代理。米国フランクリン・ピアース・ロー・センター（現：Franklin Pierce IP Center at The University of New Hampshire School of Law）知的財産修士（USMIP）課程修了

須川 賢洋 氏

新潟大学法学部助教。新潟大学大学院修了 修士（法学）。専門は情報法で、デジタル知的財産、コンピュータ犯罪、情報セキュリティなど、先端技術と法律の関係を中心に研究。共著に「ITセキュリティカフェー見習いコンサルの事件簿」（丸善）等。情報処理学会 電子化知的財産と社会基盤(EIP)研究会運営委員（前 幹事）、デジタル・フォレンジック研究会理事。

小林 和人 氏

パナソニック株式会社知的財産センター主幹、弁理士。昭和61年 早稲田大学・理工学研究科（電気工学）修了。同年、松下電送株式会社（現パナソニック株式会社）入社、現在に至る。信号処理、画像符号化、インターネット機器の研究と事業化、技術標準化に従事。平成9年から、シリコンバレー研究室長として現地の共同研究開発を総括。現在、特許ライセンス・渉外、知財戦略の立案・実行を担当。弁理士会・企業弁理士知財委員会副委員長（平成24年～）。電気学会・情報処理技術委員会第1号委員（平成27年～）。

安高 史朗 氏

安高特許会計事務所代表弁理士・公認会計士。東京理科大学非常勤講師。東京大学理学部物理学科を卒業後、特許庁における審査業務、野村総合研究所（NRIサイバーパテント出向）における知財コンサル業務、ヤフー株式会社における知財業務を経て、特許会計事務所を開業。IoTやAI分野における特許出願業務に従事。

阿部 仁 氏

富士ゼロックス株式会社在籍。博士（工学）・一級知的財産管理技能士。東北大学大学院 後期博士課程修了。専門は知財情報処理。研究・開発の傍らリエゾナーとして特許推進業務に関与。その後、知的財産部で外国出願と知財情報システムの開発運用を担当。現在は産学連携業務に従事。